

7月・8月の管理ポイント

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第64号

7月は梅雨が明けて、いよいよ芝生の管理が一番厳しい時期になります。
乾燥害・病害・虫害には、早めの対応で乗り切りましょう。

プライマーセレクト

ドライスポットの予防には...

梅雨時期(7月上旬)の降雨を利用して、**プライマーセレクト**を散布しておく(1.0~2.0ml/m²散布)

梅雨明け直後の高温多湿を緩和(透水性を向上させ、病害が発生しにくい環境にする)

本格的な高温乾燥となる前に土壌にマトリックフローが形成される

乾燥害(ドライスポット)の軽減

アクアダクト

ドライスポットが発生してしまったら...

治療剤として**アクアダクト**をドライスポット発生個所及びその周辺に散布する

1回目は2.5ml/m²で散布し、回復の状態を見ながら1週間後に1~2.5ml/m²で散布する

グリーンの色が緑色になったら回復

2剤とも非常に安全性が高いので、高温時の散布でも薬害の心配はありません。

グリンオキシラン

広範囲の病害に対する基礎防除剤として...

保護殺菌剤として、中でも有機銅剤は、幅広い病害に対し予防効果が期待できます。

特に、梅雨明け後のブラウンパッチ対策には、7月上旬までに散布して下さい。

着色剤入り製剤なので、散布後はグリーンが鮮やかな緑色に仕上がります。

使用量：300~500倍 1~2 $\frac{1}{2}$ ml/m²散布

ブイボン乳剤・ダイボスチオン乳剤

害虫多発生時のローテーション散布の一剤として...

7月、8月はスジキリヨトウ(クシナシスジキリヨトウ)の2化期幼虫の発生をはじめ、ツトガ、コガネムシ、シバオサゾウムシと多種の害虫が活発に活動する時期です。

殺虫剤の散布回数が多くなる時期ですから、薬剤の抵抗性対策としてローテーション散布を行ないましょう。

害虫が、活動を行なう夜間を狙って、夕方~夜間散布を行なえば、ヨトウ幼虫だけでなく、コガネ成虫、シバオサゾウムシ成虫の同時防除も期待できます。

使用量：ブイボン乳剤 2000倍 0.3 $\frac{1}{2}$ ml/m²、ダイボスチオン乳剤 1000~1500倍 0.3~0.5 $\frac{1}{2}$ ml/m²